

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education

教育に新聞を



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内
☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

道内07年度実践校

10校が「3年継続」

専門学校など
2校初名乗り 小中高以外に拡大へ

2007年度のNIE実践校認定に向け、各都道府県で応募受け付けが本格化している。道内では新年度も、日本新聞教育文化財団、北海道NIE推進協議会双方の認定を予定しているが、財団認定校ではこれまでに10校が「3年継続」を希望しており、希望校全校の認定を推薦する運びだ。また、協議会独自認定校では、看護専門学校と歯科専門学校が名乗りを上げ、小中高以外に初めて実践校が広がることになる。

道内の06年度実践校は財団認定校が35校、協議会独自認定校が8校の合計43校を数え、全国でも多い。財団認定校は従来、新年度から新聞活用授業の定着、強化を目指す「3年継続」を認めることになった。こうした弾

向表明があった。06年度の財団認定校35校のうち、この10校と1年目認定校19校の合計29校を「NIE継続校」として推薦できる見通しとなった。この結果、財団認定校としては、残る6校分を「NIE新規校」に充て調整を図ることになる。新規認定校には、これまでどおり、深川・一巳小、札幌・稲積中、苫小牧西高などから応募があった。一方、協議会独自認定校については、06年度認定の8校のうち4校が継続を希望しており、新たに3、4校を新規校に加える予定。独自認定校は認定基準が財団認定校より緩やかなため、申請のあった岩見沢市医師会付

斬新な教育課程を

昨秋以来、教育問題が噴出し教師に風圧がかかり社会全体が教師に厳しい目を向けた。指導に疲れ心が病んでいる教師も少なくない▼財政破綻で苦慮している夕張市のさやかな成人式。実行委員を兼ねた新成人が、手作りの心のこもった成人祭を創り上げた。挨拶した女性が涙ながらに感謝の言葉を述べた▼「行動展示」を目標とした旭山動物園。透明な円筒の通路から空を飛ぶように見えるペンギン、円柱の水槽を上下に行き交う好奇心旺盛なアザラシ。小菅園長は「動物たちが辛そうに見えたら、その動物園は負けた」といい、動物が退屈しないよう飼育環境の工夫・改善に力を入れている▼毎朝10〜20分間「基礎学力の時間」を特設し、全校一斉に基礎計算や漢字の学習に取り組む学校がある。規律と学習意欲が回復し生徒指導上の効果が表れているという。東京・品川区では「市民科」の時間に本来家庭がすべき「礼儀・作法、挨拶、法と秩序」などの「規範や社会のしきたり」を徹底指導している▼優れた実践を各校で学び、水がしみ込むように広げていけば大きな効果が期待できる。(高)

漢字能力検定協会が公募し、昨年末に発表された「二〇〇六年の漢字」は「命」であった。また昨年は、学校に関わる大きな問題として「いじめ」や、そのことを原因とする児童・生徒の「自殺」などがあり、社会の注目が一斉に学校に注がれた。そのような中、現場で日々子供と直接向き合っている私塾教師が、どのように「命の大切さ」を伝え、その結果子供自身が自分や自分の周りにいる者の「命」を尊重する心が養われるのかを強く問われていると感じた。



札幌市藻岩中教頭 豊島 義明

「思い」伝える魅力的な教材

NIEという言葉をも自分から知らない頃には、学級担任をしてきた当時には、毎日読む新聞から、自分自身が強く心を動かされた記事や生徒に是非読ませたい記事や、学活などの時間で使うことが多くあった。中学生が普段あまり読む機会のない「社説」。新学期や夏休み前などに紙面に載る中学生向けに書かれた社説には、担任が生徒に考えさせたり伝えたいと思うことが、まとまった文章で書かれており、担任の思いや願いを補完する資料として使ってきた。読者から寄せられた投稿欄には、自然に涙がこぼれてくるような実体験に基づいた感動的な話は、それだけで道徳の時間

読み物として、非常に有効なものであった。また、一九九四年愛知県で起きた大河内清輝君のいじめ自殺や、その翌年に起きた阪神淡路大震災など、その時々々の事件・事故・災害などに関わる記事なども「生きていることの大切さ」などを伝えるための資料として活用してきた。教師として生徒に伝えたい「思い」を常に意識していたからこそ新聞が持つ力や魅力を実感することができた。また、NIEの活動とも、その過程の中で巡り会うことができたことは幸運であった。拙い経験の中から、自分自身が実感できた新聞の有効性などを、今後も伝えていければと思う。

情報を選べる子どもに／コラムの主張 “1分テスト”

北海道N I E推進協議会、十勝新聞教育研究会共催の第5回N I E帯広・十勝セミナーが2月10日、北海道新聞帯広支社に教育関係者32人が集まって開かれた。授業で新聞を教材に使っている教諭5人が、教材の宝庫である新聞の具体的な活用法についてそれぞれ実践発表した。

●帯広・十勝セミナー

実践発表では、帯広啓を活動している取り組みを紹介。「子供たちに、いじめの記事を読んで感想文を書かせ、互いの感想文を読ませて全員で考えさせた。新聞は教材の宝庫である。タイムリーで、各教科とクロスする活用方法にも意図的に取り組みたい」と述べた。

芽室町芽室西中・尾崎弥生教諭は、2、3年の選択国語の授業で、北海道新聞の中小生投稿欄「みらい君の広場」に応募するため作文を書かせている。「作文が掲載された子は大きな自信を得る」と報告した。

幕別町白人小・森久彰教諭は、6年の朝のスピーチの題材として記事

高校新聞の指導法学ぶ

教諭ら研究会

北海道高校文化連盟新聞専門部主催の第3回新聞指導研究会が1月9日、北海道新聞社で開かれ、道内各高校で新聞作りを指導している先生たちなど約30人が参加した。講座では、札幌啓成高校の秋田隆之教諭が「インタビュ記事の指導」



札幌大麻高校の菅野昭浩教頭が「教育活動における学校新聞の役割と可能性」について、それぞれ新聞作りの長い指導経験を踏まえ説明した。

また、帯広柏葉高校の岩田勝美教諭は、予算を節約するためメッセージングソフトを使ったインターネットによる外部取材について報告、「ネットの利用はあくまでも補完的なもの。取材は足で稼ぐことを基本にすべてのメッセージングソフトの操作を学ぶ参加者たち



たし、ほかの生徒たちも刺激された。記事を読み比べ、自分の考えをまとめる授業では、一般の目線で社会問題を捉えられようになった」と説明した。

帯広三条高・沖野高志教諭は、国語総合の授業で「60秒間・国語力教室」を実施。新聞1面のコラムを1分間で読み、筆者の主張箇所を答えさせる小テストを課している。

「コラムは高校生の文章読解力を向上させる最適な教材。早く読み、理解する力を付けることは大入試対策にもなる。来年度は要約、縮約、批評などにも取り組んでみたい」と述べた。

池田高の平井恵一教諭は3年の総合学科で、スポーツ記事や地域の話題を扱った記事を参考に文章の書き方を指導していることを報告しながら、N I Eに取り組む教師の心構えとして「日頃からアンテナを高くして教材として活用できる記事をスクラップしておくことが必要」と指摘した。

き」と話した。同高校の田口耕平教諭は「創造的な新聞レイアウト」について、「メリハリを付けた立体的な紙面構成が必要」と強調した。名寄高校の松本春樹教諭は報道写真の撮り方の指導方法を説明した。研究協議では、函館東高などでの新聞局顧問の経験が長い静内高校の菅原淳教諭が高校生新聞の過去・現在・未来について意見を述べた。

N I E実践奮闘記

滝川高教諭

志田 淳哉



高校の進学校でもできることは何でしょう。教科の枠を超えて多くの先生方が関わってできることは何でしょう。私は「教育に新聞を取り入れる一つの方法として、

学校行事と関連模索

学校行事を利用してあります。平成14年度から昨年度まで本校の見学旅行は広島を訪問先としていました。「被爆地広島を自ら学び、平和について自ら考える」をテーマに、夏季休業中の個人による課題レポートから班によるまとめクラス・学年での発表会、旅行後の報告まで地歴公民科や国語科の授業、L H R、総合的な学習の時間等を駆使して取り組まれました。

課題レポートでは、その年度の新聞に限定した広島に関する記事から、タイムリーな情報を認識させることをねらいとしました。班のまとめでは、本校図書館の見学旅行レファレンスコーナーにある文献とその年度のリアルタイム

な情報とを比較検討させ、様々な捉え方があるということイメージさせました。

地歴公民科の授業では、中国新聞労働組合が被爆50周年を機に一日も早い核兵器廃絶を願って製作した「ヒロシマ新聞」を活用しました。この新聞は現在の視点での取材や編集があるものの、1945年8月7日に新聞が発行されていたらという仮定のものであり、新聞の広告欄から当時の様子を知ることができます。

また、太平洋戦争が勃発した日と終戦日の英字新聞(ホノルル・ピッツバーグ)からアメリカ側の視点も学ばせました。現在の新聞には、時代背景や世論、書き手の価値観が反映されることもあり、様々な視点があるといううことを着目させたかったのです。

今年度から京都・奈良に重点を置いた見学旅行となりましたが、取り組みの概要は変わりません。世界遺産に登録された年の新聞はその地域の特集を組みます。法隆寺は1993年、京都の文化財は94年、奈良の文化財は98年の新聞に注目させ、現在の情報と比較させました。

新聞はリアルタイムな情報を伝えるが故に過去との比較において説得力を持ちます。変化の激しい時代だからこそ、現在と過去の新聞を比較するという新しい視点も必要ではないでしょうか。

作る人の心 食材の命に感謝

連載「おにぎり考」で食育学習

札幌市のもみじ台中学校では、食育学習の一環として、2年(143人)の道徳で北海道新聞生活面に連載された「おにぎり考」の記事やビデオを使った立体的な授業を行っている。生徒たちの生産者や料理人の思いに感謝する心、食材をいづくしむ心を育てることに、大きな効果を挙げている。

(北海道新聞N I E推進センター委員・小田原賢二)

札幌・もみじ台中学校

見学したのは1月下旬、青森県在住の2年2組(35人)の授業。大コピイが貼られていた担任の喜田貴美枝教諭と学校栄養職員の三谷純子さんによるT T授業だ。黒板には、連載記事「おにぎり考」の第1回「おにぎり作りで著名な佐藤初女(はつめ)さん」のあと、記事の見出し

記者へのインタビューも活用

したビデオを上映。村山委員は○の中の文字は「命」と答えたあと、記事の狙いなどについて語り、「初女さんのおにぎりは米にもノリにも命が込められている。食材の命を生かすとおいしくなる。食べて元気になる。癒される。安心する。その願う気持ちで握る手のひらから出ているのかも知れません」。

ビデオは、生徒たちの食への考え方をさらに刺激した。感想文には「食べ物には人に何かを伝えるための道具と言葉にグッときた。食べ物で気持ちを伝えることはすぐ魅力的「給食を残すのはもったいない。作って

毎日新聞記者が取材の現場報告

札幌で新聞活用講座

毎日新聞社主催の「新聞活用実践講座」Ⅱ写真が1月27日、札幌市民



会館で開かれ、教諭ら約40人が新聞の具体的な活用方法について学んだ。講座では、毎日新聞北海道支社報道部の芳賀竜也記者が「日本ハムの今と未来」北海道スポーツ

小3「いじめ」考える

道N I E研究会 新聞活用例を報告

北海道N I E研究会主催の本年度第2回N I E実践交流会「冬季研修会」は1月10日、北海道新聞社N I Eプラザで開かれ、教育現場でN I Eに取り組む教諭ら約20人が参加した。



朝日新聞北海道支社の伊藤裕章・報道センター長が同社のN I Eの取り組みなどについて講演、北

海道N I E研究会副会長の上村尚生・N I Eアドバイザーが、昨年11月に北星学園女子中・高等学校で開かれた第11回北海道N I E研究会大会の成果と課題について報告した。続いて、N I E実践校の認定を受けている小・中・高3校の教諭が実践発表。札幌龍谷学園高校の岡部文佳教諭は、生徒たちが社会に関心を持ち、積極的に関わってもらうために、公民科の授業で新聞記事を活用している事例を紹介した。

札幌市藻岩中の坂本実教諭は、3年の選択社会の授業で、新聞を使った「株式学習ゲーム」について報告。「生徒たちは情報が株を買う際に役立つことを思い知ったように、新聞の経済欄も読むようになった」と説明した。札幌市平岡公園小の上田繁成教諭は、北海道新聞「Oh!さっぽろ」欄のいじめ特集を使った3年の道徳の授業について発表。「記事は漢字にすべてルビがあり、3年でも読みやすい。子供たちは実体験をもとに書かれている記事に感銘を受けた」と強い気持ちを抱いた」と述べた。



ビデオを見ながら、おにぎり作りを考える2年2組の授業

実践校
レポート

し「○をむすぶ」の○の空欄に1文字を入れて紙に書かせ、その理由を説明させた。ほとんどの生徒たちは「心」「命」と書き「おいしく握れば人の心を励ます」「生きる力をわけ与える」などと説明した。

続いて、喜田教諭がおにぎり考担当の村山健・編集委員にインタビュー

パソコン使い誰でも簡単に

「自分でつくる新聞」好評

信濃毎日新聞社

長野県の地元紙、信濃毎日新聞社は一昨年春完成した新社屋に、新聞作り教室を整備した結果、パソコンで簡単に新聞作りが楽しめるようになって、見学者が大勢押しかけるようになった。他の活動を含め、同社にNIEへの取り組みを寄稿しても良かった。

社内見学の目玉に

市販ソフト活用

日、学校単位で小学生たちがやって来る。とはいえ、新しく

2005年春、移転した印刷工場跡地に新社屋が完成した信濃毎日新聞社には、大勢の見学者が訪れるようになった。「読者に開かれた新聞社」をうたい、積極的に入れている。秋の社会見学シーズンには連



パソコンを使い、新聞作りを楽しむ信州大学教育学部の学生たち

なった社屋はいわばオフィスビル。見学の目玉となる印刷工場を併設していないため、新聞制作の作業場、編集局以外、見るべき設備などは多くはないのが実情だ。そこで社内を整備したのが、簡単に新聞作りの教室と、130年余

来月東京で高校NIE研究大会
主催の第5回研究発表大会が3月25、26の両日、東京都・十文字高校(豊島区北大塚1-10)で開かれる。
25日は、午後1時の開会式の後、総会、記念講演、同高校の公開授業な

お知らせ

学校に記者派遣

シップの場合は、自分で記事を作り、撮影した写真を入れるなど、より本格的な紙面を作ることができる。

ほかに、小学生を対象に毎年実施している「長野県こども新聞コンクール」に向け、希望する学校に記者やOBを講師派遣して喜ばれている。06年度は、7月の2カ月間で、希望のあった32校、計71クラスに出向き、延べ1655人の児童が受講した。こうした成果もあり、昨年の出品数は9000点を越えた。これらの活動も、広い意味でのNIEになるだろう、ととらえている。

(NIE推進担当・横内房寿)

どがある。26日は、3会場に分かれて研究発表があり、道内からは、函館

編集後記

○…新聞が教育現場で活用されている教科、領域といえば、小中高校とも社会、総合、国語がベスト3だが、昨年道徳や倫理の授業でも使われるケースが増えている。
○…学校内での「いじめ」による自殺や「虐待」事件が相次いだことが影響している。新聞には、いじめの実体験を語る記事や臨場感あふれる投書がある。子供たちの問題意識を醸成する良い教材になる。
○…帯広・十勝セミナーで、帯広少年院の教官が語ってくれた。「院生たちに新聞を読ませています。彼らの多くは社会問題に対する関心が高い。贖罪(しょくざい)意識の向上など、心の教育に役立っています」。
○…新聞には、他人を思いやる心の大切さを扱った記事が毎日掲載されている。社会復帰のために有効だそう。堀の中でもNIEは実践されている。実感した。(小)

「NIEの実践」高校編も完成

北海道新聞がDVD



北海道新聞社は2月上旬、高校での新聞活用授業を収めたDVDとVHSビデオ「NIEの実践」II写真IIを制作した。希

望校などに貸し出し、NIEの普及に役立てる。一昨年制作した小・中

学校編に続く高校編で、収録時間はいずれも35分。NIEの簡単な紹介と、新聞記事の学習に取り入れている石狩南高校の田中崇志教諭と札幌旭丘高校の川瀬雅之教諭の授業が収められている。石狩南の授業は、1年の国語科「国語総合」の内容はメディアリテラシーの入門で、生徒たちが新聞2紙の社説「9・11同時テロから5年」を読み比べて、自分の意見を述べている。旭丘は、2年の公民科「政治・経済」授業。生徒たちが、記事を参考に政党のマニフェスト(政権公約)をグループごとによって発表。全員投票によって支持する公約を選んだ。データを探し出して判断、批判する力を養う学習となっている。

参加申し込み、問い合わせは明治大学付属中野八王子高校・佐藤有宛へ。FAX 042-691-0098。